

第 2 学年 算数科学習指導案

日時：平成 31 年 1 月 11 日（金）

3 校時（10：30～11：15）

場所：宜野湾市立普天間小学校 2 年 A 組

対象：男子 16 名 女子 15 名 計 31 名

授業者： 仲宗根 智恵

研究主事： 塩川 真弓

I 研究テーマ

児童の実態を大切にしたいわかる授業づくりの工夫
—算数科の授業におけるアセスメントシート分析パッケージ
の活用を通して—

II 研究仮説

- 1 算数科「A 数と計算」における授業づくりにおいて、アセスメントシート分析パッケージを活用し、総合的な実態把握を行うことで、児童の学びの過程の困難さに気づき、教育的ニーズに応じた指導・支援を工夫することができるであろう。
- 2 教育的ニーズに応じた指導・支援の工夫と教科指導の工夫を関連付けながら授業づくりを行うことで、児童が学ぶ楽しさや達成感を味わうことができ学習内容の理解に繋がるであろう。

III 研究テーマとの関わり

平成 24 年 12 月に、文部科学省によって示された「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」によると、「知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合」は約 6.5%、その中でも「学習面で著しい困難を示す児童生徒の割合」は 4.5% という結果が示された。

平成 28 年 8 月の「特別支援教育部会における審議の取りまとめ(報告)」によると、通常学級における改善・充実の方向性として「発達障害を含めた障害のある子供たちが在籍している可能性があることを前提に、個々の子供の障害の状態等の実態把握や、障害の状態等に応じた指導内容・指導方法の工夫を検討することが必要である。」と述べられ、児童一人一人の丁寧な実態把握を基にした指導・支援の必要性が示された。

学習指導要領（平成 29 年告示）解説算数編によると、算数科「A 数と計算」における配慮として、「『商』『等しい』など、児童が日常使用することが少なく、抽象度の高い言葉の理解が困難な場合には、児童が具体的にイメージをもつことができるよう、児童の興味・関心や生活経験に関連の深い題材を取り上げて、既習の言葉や分かる言葉に置き換えるなどの配慮をする。」「文章を読み取り、数量の関係を式を用いて表すことが難しい場合、児童が数量の関係をイメージできるように、児童の経験に基づいた場面や興味のある題材を取り上げたり、場面を具体物を用いて動作化させたり、解決に必要な情報に注目できるよう文章を一部分ごとに示したり、図式化したりすることなどの工夫を行う。」と示されており、「子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行う」という特別支援教育の観点を取り入れ、特別な支援を必要とする児童を含め、すべての児童にとって学びやすい授業づくりを進めていくことが求められている。

宜野湾市立普天間小学校(以下、本校とする)では、校内研修において、「思考力を育成する指導の工夫」をテーマとし、「伝え合う・学び合う活動を通して」をサブテーマに算数科における研究を進めている。本校の 4 年間の成果として、「ノート指導」で、「めあて」と「まとめ」を連動するように意図的にノートの使い方を指示することで、授業の流れがわかるノートになり、振り返りに活用

することができるようになっている。本研究の対象となる2年A組においても、1年生からの継続によりノートのかき方は定着してきている。自分の考えをノートにかくことができる児童も増えてきた。しかし、児童一人一人、かく速さや文字の定着に違いがあるため、中には、周りと同じ速さについていけなくて途中で諦めてしまう児童や、かき写すのが精一杯で学習内容の理解が不十分な児童も見られる。手立てとして、かく量を調整したワークシートの作成や思考の手立てとなるヒントカードも準備していたが、それが適切な指導・支援につながっているのか疑問をもちながら行ってきた。これまでの授業を振りかえってみると、授業の中での手だてが、児童が必要としている支援と合致せず、方法だけが一人歩きした授業となっていたのではと反省し、一人一人の実態を踏まえた指導・支援の工夫をどのように行うかを考えていく必要性を痛感した。

そこで、本研究では、算数科「A数と計算」の授業づくりにおいて、アセスメントシート分析パッケージの活用を通して、学級集団・個の実態を把握し、学びの過程において想定される困難さへの指導・支援の工夫を検討していく。教育的ニーズに応じた指導及び必要な支援を工夫することで、児童が、解決の見通しを持って課題に向かい「わかった」「できた」と実感し、学ぶ楽しさ・達成感を味わうことができ、学習内容の理解に繋がるのではないかと考え本テーマを設定した。

以上のことから、本時の検証授業では、「A数と計算」領域の「10000までの数」において、4位数の大小の比較を行う。本学級の児童の実態に基づき、めあての焦点化において、児童に興味関心をもたせた導入の工夫を行う。大きい位から比べた方がいいことの理解を導くため、日常の事象から算数の問題を見出し、考えを確かめる場面を設定する。展開においては、問題を小分けにした1ステップのワークシートを活用し、「自力解決、検討、確認、言語活動」を繰り返し行うことでどの児童にも位をそろえ、大きい位から比較することを身に付けさせたい。導入の工夫や小分けにした問題提示等の手だての工夫によって、児童の学習の理解につながるかを検証する。

Ⅳ 単元名 「10000までの数」(学校図書 算数2年下 P57)

Ⅴ 単元目標

- 数の意味や表し方について理解し、数を用いる能力を伸ばす。【A(1)】
 - ・10000までの数の構成、読み方や書き方、千の位を理解する。【A(1)ア】
 - ・4位数までの数の大小や順序について理解する。【A(1)イ】
 - ・4位数で、百、千などを単位として数の相対的な大きさを理解する。【A(1)ウ】

Ⅵ 単元について

1 教材観

これまで、**「1000までの数」**を学習してきている。この単元では、3位数までの数や計算の理解を基にして、4位数まで広げて学習する。1学年では、数の構成や表し方については、ものともとの対応させてものの個数を比べること、10ずつまとめて数えるなど十を単位として捉えることを学習してきた。2学年でも、まとまりに着目して数え、数を十や百を単位として捉え、数の相対的な大きさについて理解する。**「1000までの数」**では百を単位として1000を作ってきたが、本単元では、同じようにして、千を単位にして10000を作る。

数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、数の概念の理解を深め、数量の感覚を豊かにすることを身に付けさせたい。また、数が大きくなるにつれて、具体物から離れてしまいがちであるが、日常の事象を算数の場面に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考えたりするなど**「数学的な見方・考え方」**を働かせた学習を展開し理解を深めたい。

2 児童観(児童の実態)

児童の実態把握を(1)レディネステスト(2)アセスメントシート分析パッケージ(3)行動観察よ

り行った。実態把握の結果と考察は、以下の通りである。

(1) レディネステスト（10000 までの数）

表 1 10000 までの数 レディネステスト

問	問 題	正答	誤答	無答
1	絵を見て、3 位数の数構成を理解し、書く。	26 人	3 人	1 人
2 ①	十進位取り記数法（数の仕組み）	24 人	6 人	0 人
②	漢数字から算用数字を書く。	26 人	3 人	1 人
③	数の相対的な見方	24 人	3 人	3 人
④	3 位数の空位の表記	25 人	3 人	2 人
3 ①	数順序・系列（1 とび）	26 人	4 人	0 人
②	数順序・系列（10 とび）	28 人	2 人	0 人
4 ①	数の大小	29 人	0 人	1 人
②	数の大小	28 人	1 人	1 人

問 2 の①②④の結果より、十進位取り記数法の意味理解、3 位数の数の仕組みや数構成、問 2 の③問 4 ②からは相対的な大きさについてまだ定着していない児童がいることが分かった。

(2) アセスメントシート分析パッケージの結果と考察

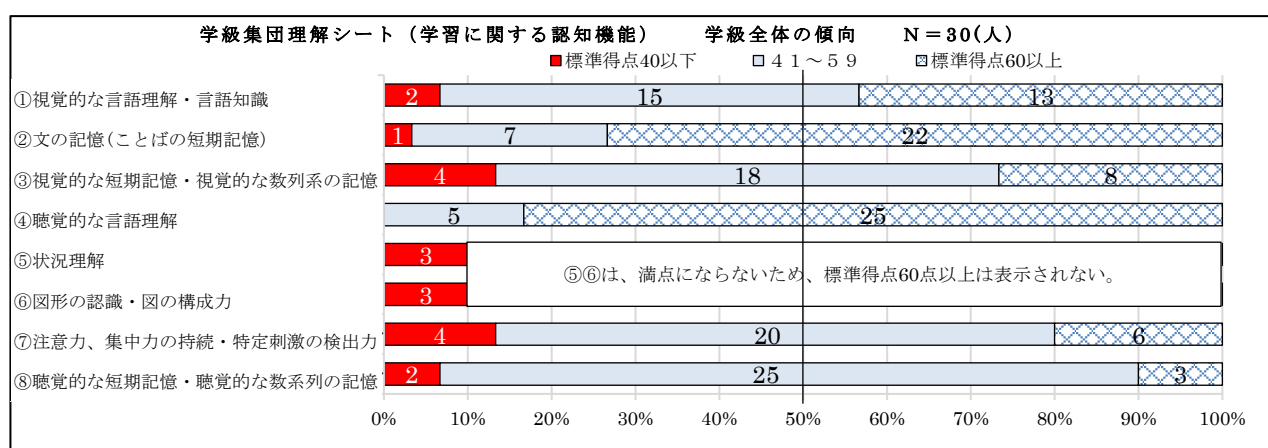


図 1 2 年 A 組 学級全体の傾向

上記の 2 年 A 組学級全体の傾向（図 1）をアセスメントシート分析パッケージの 8 つの観点（①～⑧）とその組み合わせを見ながら、学級集団・個を理解する手順に沿って考察していく。

まず、②と④の「聞く」ことにかかわる力を見る。次に、③と⑧の、「記憶」に関わる力、②と⑦の「処理能力」に関わる力、①と②の「読み・書き」に関わる力を見る。最後に、③と⑤の「見る」に関わる力を見て関連性から学級集団や児童一人一人の特徴を把握する。

これらのことから、学級全体の傾向として、強みは②の文の記憶と④の聴覚的な言語理解である。また、弱みは、③と⑧の記憶に関わる力、⑦の注意力、集中力の持続、特定刺激の検出力である。

このことより、短期記憶については、視覚的にも、聴覚的にも困難さが見られた。一方、聴覚的な言語理解が強いことは、「話の内容を機械的に覚えておくことは苦手だけど、内容について自分にとって理解や納得ができると、聞いた内容が記憶することはできる」と考えられる。

また、注意力や集中力に困難さがみられる傾向にあり、問題を早合点する児童、重要な点を断片的にしか見られない児童も考えられる。言葉の理解や、言葉の短期記憶に困難さがみられる児童もいる。

(3) 行動観察

ビデオ撮影による授業中の行動観察や日頃の行動より、歌や ICT 機器の活用時には注目し、個人差はあるが、授業前半は、集中して取り組むことができる。だが、離席や学習用具の準備が不十分な児童、私語や姿勢の保持、活動の切り替えが苦手な児童など課題は様々である。

3 指導観

本学年の「1000 までの数」での学習経験を生かせるように指導することが大切である。「10 ずつまとまりを作って数える」「10 のまとまりが 10 集まると、1 つ大きい新しい位を作ることが

できる。」ということが指導のポイントになる。

本単元では、数の構成、読み方、書き方、数の順序、系列、大小比較、数の相対的な大きさについて学習する。数が大きくなっても、具体物を操作し、それと結び付けて数を見ることができるよう指導を工夫したい。数の読み方、書き方、数の大小に関しても、具体物の操作、図、言葉、数を相互に捉えて考えることができるように指導する。数の大きさについても、形式的な指導はさけ、具体物を数えることを通して、理解を深めていくようにする。具体物を操作し、数を数えることを通して、大小比較や数系列、など機会があるごとに指導して数に対する見方を多様にしておくことが大切である。

本校の校内研においても「思考力を育成する指導の工夫～伝え合う・学び合う活動を通して～」を進めている。そこで、本時においては、思考力を支えるため、既習を活かす指導を大切に指導していきたい。本学級の児童の実態の傾向によると、数が大きくなることで、視覚的にも聴覚的にも記憶にとどめにくく、処理において、困難さが生じると予想される。そういった、一時的に記憶・処理する力を補うためにも、既習が想起できるような工夫や板書とノートのかき方の工夫を取り入れて指導にあたる。また、数が大きくなっても、身近な問題として捉えられるように、日常生活から算数の場面を考えるような工夫（数学的活動）も必要と考える。「10000 までの数」の学習について、具体物の操作を通して、数の感覚を身に付けさせ、数の意味や表し方について理解し、既習を活かし問題を解決できる児童を育てたい。

本時において、実態把握に基づき、アセスメントシート分析パッケージにおける 8 つの観点を照合した本学級の教育的ニーズに応じた指導内容や指導方法の工夫（表 2）を下記に示す。また、「X 本時の指導（6）展開」の中に総合的な実態把握に基づいた指導・支援の工夫と教科指導の工夫を関連付け、全体への支援と個別の支援を示す。

表 2 本学級の教育的ニーズに応じた指導内容や指導方法の工夫

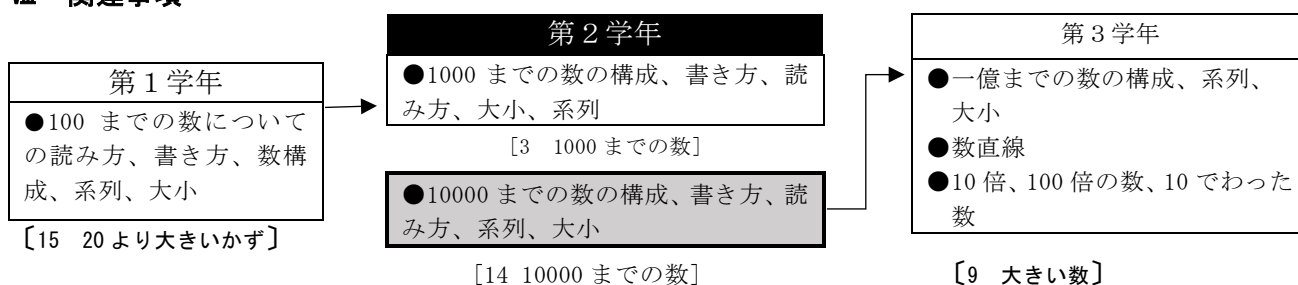
観点	本時の指導の工夫（場面）
②文の記憶(ことばの短期記憶)	・ワークシートに直接かけるように、ノートと同じマス目を取り入れる。（展開） ・「聞く」と「かく」の時間を分けて、かく時間を十分に確保する。
③視覚的な短期記憶 ・視覚的な数列系の記憶	・既習の想起ができる環境を作り思考を助ける工夫。 ・位の色を教科書と同じ色で示す。
④聴覚的な言語理解	・ストーリーを設定し、日常生活の事象を算数の場面で考えるようにしエピソードとして残りやすいようにする。
⑤状況理解	・学習の流れを一覧にし、今行っているところに矢印などで示す。 ・位取り表のどこに注目しているのか囲む。または、いらなところを隠す。
⑥図形の認知 ・図形の構成	・位取り表のマス目は、かきこみやすくする。
⑦注意力・集中力持続 ・特定刺激の検出力	・見通しをもたせるため、授業の流れを一覧にし、確認する。 ・ワークシートを一枚ずつつづり、順に問題に取り組むようにする。板書も課題ごとに提示するようにする。 ・「聞く」「かく」の時間を分けてメリハリをつける。
⑧聴覚的な短期記憶・聴覚的な数列系の記憶	・位取り表の位を色分けし、言語だけの情報に加え、視覚化する。 工夫を行う。 ・既習を振り返り確認する。

VII 評価の観点から見た単元の目標と評価規準

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
目標	10 ずつまとめて数えることや十進位取り記数法のよさに気づき、10000 までの数を進んで用いようとしている。	十進位取り記数法の仕組みに気づき、数の相対的な大きさを捉えている。	4 位数までの数を書いたり読んだりすることができる。	4 位数までの数の表し方、大小、順序、相対的な大きさなどを理解し、数についての豊かな感覚をもっている。

A	具体物を十のまとまり、百のまとまり、千のまとまりにまとめるなど、十進位取り記数法のよさを味わい、進んで10000までの数を数えたり、日常生活の中で用いようとしている。	具体的なものの個数を数える活動を通して、十進位取り記数法の仕組みをもとに、言葉や図を用いて表現し、4位数の表し方を考えたり、数の相対的な大きさをとらえたりしている。	進位取り記数法の仕組みをもとに、10000までの数について、数えたり書き表したりすることができる。	3位数の数系列の理解とともに、4位数の系列、順序、相対的な大きさなどを理解し、数についての豊かな感覚をもっている。
B	具体物を十のまとまり、百のまとまり、千のまとまりにまとめ、そのよさに気づき、10000までの数を数えたり、用いたりしようとしている。	具体的なものの個数を数える活動を通して、十進位取り記数法の仕組みをもとに、4位数の表し方を考えたり、数の相対的な大きさをとらえたりしている。	4位数までの数を書いたり読んだりすることができる。	数直線上に表されている数を通して、4位数の系列、順序、相対的な大きさなどを理解し、数についての豊かな感覚をもっている。

VIII 関連事項



IX 単元の指導計画・評価計画

時数	○学習内容	【観点】評価規準	【観点】評価基準 B	◎学級全体への手だて
1	○ストローの数を 10 のまとまり、100 のまとまりを考えながら、数える。 ○千の位を知り、4 位数の読み方や書き方を理解する。	【知・技】 10 のまとまり、100 のまとまりを考えながら、具体物を数えることができる。また、4 位数を読んだり、かいたりできる。	○10 のまとまり、100 のまとまりを作ろうとしている。【関】 ○位取り表を使って 4 位数を読んだりかいたりできる。【知・技】	◎グループの編成に配慮する。 ・人間関係、リーダー性など活動のしやすいグループを編成する。 ◎位取り表の位の色を教科書と同じ色を使うことを確認する。 ・位自体に関連するイメージをもたせることで視覚的な記憶を助ける。
2	○紙の数を位取り表に表し、空位のある数について理解する。 ○空位のある 4 位数を書く。	【知・技】空位のある 4 位数を読んだり、書いたりすることができる。	○位取り表を使って、空位のある 4 位数を読んだりかいたりできる。【知・技】	◎既習内容を想起させるコーナーを作る。 ◎1 ステップずつ問題を小分けにして進める。 ・問題の見落とし、早合点の傾向を軽減する。
3	○1800 や 2300 を 10 や 100 を単位としてとらえる。 ○4 位数を読んだり、書いたりする。	【考】4 位数を、十進位取り記数法の考えをもとに、数の相対的な大きさをとらえている。	○4 位数を 100 を単位として、捉え、図や言葉を用いてとらえている。【考】	◎問題の意味を分かりやすく囲みながら説明し、理解できているか確認 ◎1 ステップずつ進める。 ・聞き返す児童もいるので、事前に声掛けをしたり課題を焦点化、確認して進める。
4 本時	○4 位数の大小を比較する。	【考】4 位数を、十進位取り記数法の考えをもとに、数の相対的な大きさをとらえたりしている。 【知】4 位数の大小比較ができたか。	○4 位数の大小比較の際、既習をもとに導き出している。【考】 ○4 位数の大小比較ができる。【知・技】 用語「<」「>」	◎1 ステップずつ問題を小分けにして進め、検討や確認を繰り返す。 ・問題の見落とし、早合点の傾向を軽減する。 ◎一問ごとに言語活動を入れる。 ・ことばの理解が不十分な児童がいる。 ・集中力、注意力が途切れやすいため、一題ごとのメリハリをつける。

5	○数直線上の数を読む。 ○千が 10 集まると一万になることを知る。	【考】数直線の 1 目盛りがいくつになるかを、数の相対的な大きさに目を向けて考えている。 【知】10000 は、1000 を 10 個集めた数ということを理解している。	○数直線の 1 目盛りがいくつになるかを相対的な大きさをとらえている。【考】 ○10000 は 1000 を 10 個集めた数ということを理解している。【知】	◎既習内容を想起させるコーナーを作る。 ・短期記憶に困難さがある。 ・既習の活用
6	○既習事項の理解を深める。 (位取り表と数直線を活用して 4 位数の数構成の理解を深める。)			◎既習内容を想起させるコーナーを作る。
7	○既習の確かめをする。			

X 本時の指導「10000 までの数」(4 / 7 時間)

(1) ねらい

- 4 位数の大小を比較する。

(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	評価方法
【考】	十進位取り記数法の仕組みをもとに、4 位数の表し方を考えたり、数の相対的な大きさをとらえたりしている。	児童のノート、発表
【知・理】	3 位数の理解をもとに、4 位数の系列、順序、大小、相対的な大きさなどを理解し、数についての豊かな感覚をもっている。	児童のノート、チェックテスト、

(3) 本時の工夫点と検証

	場 面	工夫点(手立て、方法)	子どもの姿【評価基準B】
導入	2つの4位数を提示する場面	位を焦点化した見せ方	位に着目し、ノートに自分の考えをかく。【考】
展開	問題を解決する場面	問題を小分けに提示、検討する。	課題を一つずつ解く時に、既習を活用して解く姿【考】 問題やチェックテストを自力で解決している。【知・技】
終末	まとめ、振り返り	板書による児童の思考を、色チョークを使って囲む。	4位数の大小比較では大きな位から順に比べればいいことが分かる。【知】

(4) 行動観察による児童の変容と検証

児童の行動	全体・個への手だて	変容(○有 △無)
かくことに困難さを持つ児童	ワークシートの活用	かくことができているか。
早合点、問題の見落としのある児童	・ 1 ステップごとの問題提示 ・ 問題文の読み合わせ ・ 事前に問題数の確認、確かめの時間の確保(チェックテスト)	集中して、落ち着いて課題にとりくめるか。
聞き返す児童	事前の説明と指差し確認	説明をきちんと聞き活動しているか。
集中力が途切れてしまう児童	今日の流れの一覧と印の活用	見通しを集中して課題に取り組めるか。
どの問題をやっているかわからない	1 ステップごとの課題の提示	やるべきことが分かり課題に取り組めるか。
問題の解き方が分からない【考】	既習コーナー	既習を活かして解決しようとしているか。

(5) 授業仮説

数のまとまりや位に着目させる工夫をすることで、4 位数の大小比較の理解につなげることができるであろう。

(6) 展開

本時のねらい ○4 位数の大小を比較する。

準備するもの ・位取り表・ブロック・ワークシート・既習の内容

展開	学習活動・内容・発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点・○手だて【評価】	
			全体への支援	個への支援
導入 (8)	1. ワンミニッツ (数直線に2つの数字を書く。) ・次の2つの数を□にかきましょう。(みんなで読む) ・答えは2か所にかきます。 ・おわったら確かめます。 ・裏返します ・赤鉛筆をもって待ちます。 ・用意はじめ。 2. 今日の学習の流れを確認する。 3. 既習の想起 4. 問題の提示	・早く終わったら赤鉛筆に持ち替える。 1 よい解き方を考える。 2 めあての確認 3 ①問題をとく 友だちの解き方を聞く。 ノートタイム ②問題をとく 友だちの解き方を聞く。 ノートタイム ③問題をとく 友だちの解き方を聞く。 ノートタイム ④問題をとく 友だちの解き方を聞く。 ノートタイム 4 みんなで考える。 5 まとめ 6 チェックテスト、ふりかえり ・どの位から比べたらよかったかな。 ・3桁の数の比べ方と同じようにできと思う。	・全員が鉛筆を持って記名が済んでから始める。(スタートを大事にする) ○指示をするときは、わかりやすい言葉で短く切って話し、大切な指示は文字で示す。 ○学習の流れを明示し、見通しを持たせる。 ・2つの数のそれぞれの位に焦点をあてて提示する。 ・例を示し、大きい位(千の位)から比べるとよいことに気づかせる。 ○千の位を囲む。	机間指導 ・何とびで数が並んでいるか考えるよう促す。 ・千の位の場所を確認する。
展開 (27)	4けたの数の大きさをくらべよう 4 問題を解く。 ・先生の説明を聞く。 ・問題を解く。 ・発表する。 ・全体での確認 ・大小を比較する。(位の数が同じ時、どの位に注目したかその都度確認する。) ・ノートに書く。 5. 検討する。 共通点や相違点から、やっぱり大きい位から比べた方が正確に比べられることが分かる。	①千の位でわかる ・千の位で比べる。 ・千の位の4は4000 5は5000 ②あれ？千の位は同じ。 ③あれ？あれ？今度は百の位も同じ。 ④一の位からが早いんじゃないのかな？ ・やっぱり千の位からだよ。 ・4つとも○がついているところが違う。 ・大きい位から順に比べるといい。	○注目させてから指示し、「かくとき」「聞くとき」を設定する。 ○位取り表の位別に色分けする。 ○問題を小分けにして、順に提示、検討・確認する。 ②では、ペアの話し合いを持つことを事前に話す。 ・気づきを持った児童の把握し、考えを共有する場を持つ ○活動時間を具体的に示す ○タイマーの活用。 ○注目させてから指示する ○ノートに書く時間の確保 ○本時の活動の中でポイントとなった言葉を囲む。	○既習が確認できるコーナーを作る。○早く済んだ児童には補充問題を用意する。 ○個別の支援 かくことの負担を軽減したワークシートを用意。 - 机間指導 (①をかけたか確認) - 机間指導 ○位取り表に合わせたスリットを用意する。
まとめ (5) 振り返り (5)	6 まとめ ・4けたの数を比べるときには、大きい位(千の位)から順に比べるとよい。 8 チェックテスト	・早くかき終わった児童は、振り返りをノートにかく。	○かく時間の確保 ○声に出して読む。 ○タイマーの活用 ○問題を声に出して読む。 ○問題数の確認 ○確かめの時間の確保	・指差ししながら読む。 - 机間指導 ・見落としがないか声かけをする。 【知】4位数の大小比較ができたか。

(6) 板書計画

日付	既習の想起	めあて	まとめ																																				
タイマー	<table border="1"><tr><td>百</td><td>十</td><td>一</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> < <table border="1"><tr><td>百</td><td>十</td><td>一</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	百	十	一		2				百	十	一		3																									
百	十	一																																					
2																																							
百	十	一																																					
3																																							
学習の流れ	<table border="1"><tr><td>百</td><td>十</td><td>一</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <table border="1"><tr><td>百</td><td>十</td><td>一</td><td></td></tr><tr><td></td><td>9</td><td></td><td></td></tr></table>	百	十	一		2				百	十	一			9			① 4950 < 5160	③ 9253 > 9238																				
	百	十	一																																				
	2																																						
百	十	一																																					
	9																																						
同じ位同士比べる	<table border="1"><tr><td>千</td><td>百</td><td>十</td><td>一</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	千	百	十	一									<table border="1"><tr><td>千</td><td>百</td><td>十</td><td>一</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	千	百	十	一									<table border="1"><tr><td>千</td><td>百</td><td>十</td><td>一</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	千	百	十	一								
千	百	十	一																																				
千	百	十	一																																				
千	百	十	一																																				
大きい位から順に	② 8340 < 8610	④ 5769 > 5764																																					
	<table border="1"><tr><td>千</td><td>百</td><td>十</td><td>一</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	千	百	十	一									<table border="1"><tr><td>千</td><td>百</td><td>十</td><td>一</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	千	百	十	一									<table border="1"><tr><td>千</td><td>百</td><td>十</td><td>一</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	千	百	十	一								
千	百	十	一																																				
千	百	十	一																																				
千	百	十	一																																				

(7) 座席表 略

(8) ワークシート 別紙参照

(9) 授業者の評価

評価：◎適切 ○やや適切 △改善が必要

項目	評価	備考
① 題材と研究テーマとのかかわりは明確であったか。		
② 本時の目標の設定は適切であったか。		
③ 授業の展開は学級の実態に合っていたか。		
④ 児童への支援は児童の実態に合っていたか。		
⑤ 教材・教具は適切であったか。		
⑥ 時間配分は適切であったか。		

ご意見・お気づきの点をご記入よろしくお願いします。